

3. 都ぞ弥生百年記念講演 式次第

14:30~16:00

北大クラーク会館講堂

【講演要旨】

明治45年に恵迪寮寮歌「都ぞ弥生」が誕生して今年で百年になる。しかし、「都ぞ弥生」は一日にして成ったのではない。明治5年に札幌農学校の前身「開拓使仮学校」が芝増上寺内に設置されて以来40年にわたる若者たちの苦闘と希望が、作歌の横山芳介と作曲の赤木顕次によって結晶されたものである。

恵迪寮の名は「都ぞ弥生」のメロディーにのって満天下に広まり、多くの青年たちを北の大地に招いてきた。そして、今もなお、かつて寮生だった者たちの胸に万感を呼び起こす。戦中・戦後の激動する時代においても、高度経済成長を経てバブル経済へと至る飽食の時代にあっても、恵迪寮生たちは「都ぞ弥生」を歌い続けてきた。「都ぞ弥生」は、厳しい北の自然の中で、自らを高め、自らを律し、自らを成長させようと願う若者たちの歌であった。

札幌農学校の寄宿舎として開舎され、明治39年に命名された恵迪寮の歴史をたどりながら、あらためて「都ぞ弥生」これまでの百年とこれからの百年に思いをはせる。

＜統括進行＞	恵迪寮同窓会常任幹事	藤田正一君（S38入寮）
＜司会進行＞	恵迪寮同窓会幹事	淵上玲子君（H8入寮）

1. 開会の辞・講師紹介

恵迪寮同窓会常任幹事

藤田正一君

2. 講演 「【都ぞ弥生】これまでの百年とこれからの百年」

講師

作家

佐川光晴 君（S58入寮）

【講演者プロフィール】

佐川光晴氏は1983（昭和58）年4月北大文系に入学、改築なった現寮の第一期執行委員を務める。在学中に1年間、南米に遊ぶ。また、寮問題で丸山真男の弟子・松沢弘陽と対決。1988年3月、6年目4年で法学部卒業。出版社に勤務するも1年で退社、1900年より大宮の屠場で働く。2000年「生活の設計」で第32回新潮新人賞、作家デビュー。以後、屠場を退社し、主夫兼作家として現在に至る。「おれのおばさん」で坪田譲治文学賞受賞（2011年）。